

# 教宣 せぶん

## つないだタスキ、次代へ

財産訴訟の和解成立がどぶいたニュース 177 で報じられました。勇気をもって、献身的にこの訴訟をすすめて頂いた弁護団の先生方に心より感謝申し上げます。

あらためて財産訴訟に関わる教宣紙を読み返してみました。証人調べのやり取りが書かれたどぶいたニュース(130・131)、その法廷の雰囲気や感じたことなどが書かれてある本紙(130・135・136・138～146)。和解が成立したという過程において、私たちは常に全力でたたかってきたと率直に思います。

組合再建以来、私たちの運動は「地位確認訴訟」「不当労働行為問題」そして「財産訴訟」を基軸にすすめられてきました。そのたたかひの時々で、こういうたたかひを起さなかったらこんな当たり前のことも主張できなかったのかという思い、逆に言えばこういうたたかひを起したからこそ、あの時みんなが当たり前に感じた疑問を世に出すことができたという思いがわいてきました。間違っていると思うことに勇気をもって「おかしい」と声を上げること、正しいと思ったことを怯まずにすすめていくことの大切さを、私たちはこの財産訴訟からも体験しました。

この財産訴訟の法廷に立ち会って、つないできたタスキの重さ、歴史の重さを感じずにはられませんでした。過去に組織分裂を経験され、少数組合になりながらも、その企業に全損保の灯を守ってきた支部があり、果敢に勇ましくたたかってきた先輩たちがおられたことで、この財産訴訟での私たちの主張は組み立てられました。そういった先輩たちの頑張り、意地、強さを、「吉田証言」からしっかりと脳裏に焼き付けることができました。全損保のたたかひの歴史をまさに法廷で学んだと言えます。私たちはこのつながれたタスキを、さらに次代へとつないでいかなければなりません。

基軸としてきた三つのたたかひのひとつが解決しました。次の世代へ渡すタスキをさらにしっかりとしたものにするためにも、残りのたたかひ、「完全勝利」めざして突きすすみましょう。私たちが果敢にたたかひ切った後にも、きっと確かな足跡が刻まれるはずです。